

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

1 調査結果の概要

(1) 平成 26 年度[12 月調査]の結果

- 平成 26 年度[12 月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準(P2〔注 1〕参照)に対して「おおむね達成」の到達基準を上回ったものは、22 教科中 19 教科(小学校 12 教科中 12 教科、中学校 10 教科中 7 教科)であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 「十分達成」の到達基準を上回ったものは、中学 1 年生の国語と英語であり、学習内容が十分習得されていた。
- 「おおむね達成」の到達基準を下回ったものは、中学 1 年生の社会、中学 2 年生の社会と理科であり、課題が見られた。

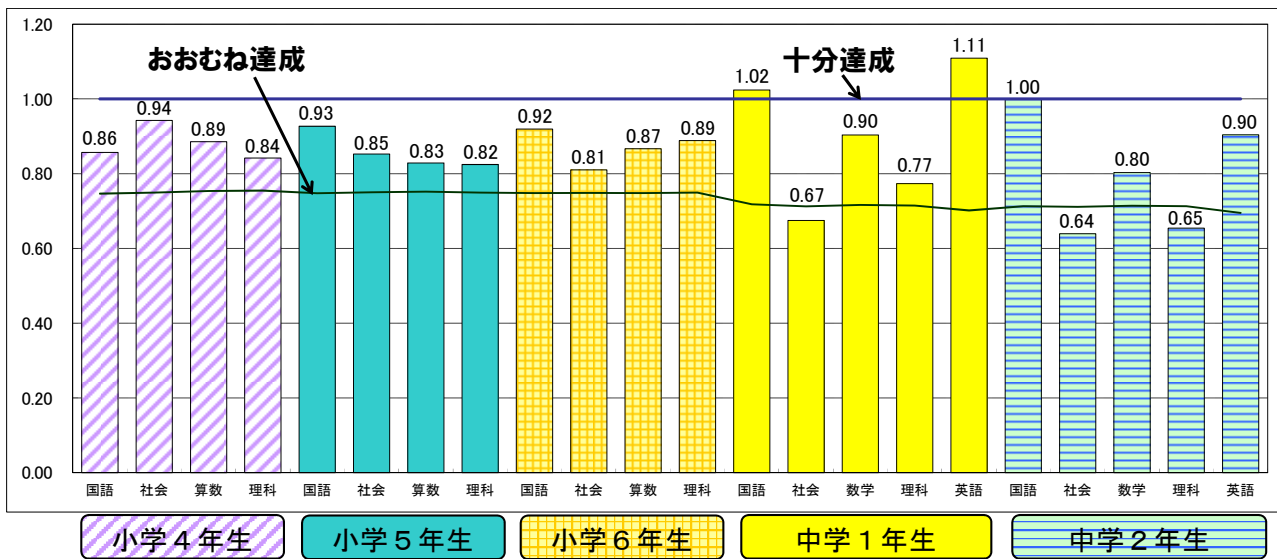
〔表 1〕各学年・教科の到達状況

教科	平成 26 年度[12 月調査]の到達状況				(参考)平成 25 年度(4 月実施)の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	67.6	78.9	58.9	0.86	—	—	—	—
小4社会	75.2	79.8	59.8	0.94	—	—	—	—
小4算数	71.9	81.2	61.2	0.89	—	—	—	—
小4理科	68.6	81.5	61.5	0.84	—	—	—	—
小5国語	73.4	79.2	59.2	0.93	59.3	80.2	60.2	0.74
小5社会	68.2	80.0	60.0	0.85	68.7	78.5	58.5	0.88
小5算数	66.8	80.6	60.6	0.83	66.6	79.1	59.1	0.84
小5理科	65.8	79.8	59.8	0.82	63.4	79.4	59.4	0.80
小6国語	72.9	79.3	59.3	0.92	※ ¹ 53.7	※ ² 77.5	※ ² 57.5	0.69
小6社会	64.4	79.5	59.5	0.81	58.0	79.5	59.5	0.73
小6算数	68.8	79.4	59.4	0.87	※ ¹ 70.2	※ ² 78.8	※ ² 58.8	0.89
小6理科	70.8	79.7	59.7	0.89	58.0	79.4	59.4	0.73
中1国語	72.7	71.0	51.0	※ ³ 1.02	68.5	80.8	60.8	0.85
中1社会	46.9	69.5	49.5	0.67	59.6	79.2	59.2	0.75
中1数学	63.7	70.5	50.5	0.90	72.7	78.9	58.9	0.92
中1理科	54.2	70.1	50.1	0.77	61.4	79.4	59.4	0.77
中1英語	74.3	67.0	47.0	※ ³ 1.11	—	—	—	—
中2国語	69.7	69.7	49.7	1.00	61.6	69.8	49.8	0.88
中2社会	44.3	69.3	49.3	0.64	53.1	68.9	48.9	0.77
中2数学	56.2	70.0	50.0	0.80	53.8	69.4	49.4	0.78
中2理科	45.6	69.7	49.7	0.65	47.5	69.7	49.7	0.68
中2英語	59.3	65.6	45.6	0.90	60.2	64.8	44.8	0.93

平成 25 年度(4 月実施)においては、該当学年の前学年までの内容(中学 1 年は、小学 6 年までの内容)を、また、平成 26 年度[12 月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

[グラフ1] 平成26年[12月調査] 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合

(十分達成=1.00)



(2) 平成26年度[4月調査]との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成26年度[4月調査]の割合を上回ったものは、8教科中7教科であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況に改善が見られた。
- 平成26年度[4月調査]において「おおむね達成」を下回っていた中学2年生の数学は、「おおむね達成」の到達基準を6.2ポイント上回っており、改善が見られた。

[表2] 国語、算数・数学における各学年・教科の到達状況(平成26年度[4月調査]との比較)

教科	平成26年度[12月調査]の到達状況				平成26年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」 に対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に に対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	73.4	79.2	59.2	※4 ↑0.93	67.6	79.8	59.8	0.85
小5算数	66.8	80.6	60.6	※4 ↑0.83	59.7	79.6	59.6	0.75
小6国語	72.9	79.3	59.3	※4 ↑0.92	※1 64.5	※2 78.4	※2 58.4	0.82
小6算数	68.8	79.4	59.4	0.87	※1 69.9	※2 78.0	※2 58.0	0.90
中1国語	72.7	71.0	51.0	※3 ※4 ↑1.02	70.1	80.0	60.0	0.88
中1数学	63.7	70.5	50.5	※4 ↑0.90	70.5	79.5	59.5	0.89
中2国語	69.7	69.7	49.7	※4 ↑1.00	60.4	69.5	49.5	0.87
中2数学	56.2	70.0	50.0	※4 ↑0.80	47.3	68.4	48.4	0.69

平成26年度[4月調査]においては、該当学年の前学年までの内容(中学1年は、小学6年までの内容)を、また、平成26年度[12月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

- ※1 平成25年度(4月実施)及び平成26年度[4月調査]の小6国語、小6算数については、全国調査問題を県独自の基準で採点し、A問題とB問題とを合わせたときの正答率を示している。
- ※2 平成25年度(4月実施)及び平成26年度[4月調査]の小6国語、小6算数については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。
- ※3 網掛けは、「十分達成」に対する割合が1.0を上回っている教科を示している。
- ※4 [表2]にある「↑」は、「十分達成」に対する割合が、平成26年度[4月調査]と比較して上回っている教科を示している。

2 各教科の概要・指導のポイント

【国語】

《概要》

- ・ 小中学校ともに、教科全体正答率は、「おおむね達成」の到達基準を上回った。中学校においては、十分達成の到達基準に達している。
- ・ 「言語についての知識・理解・技能」について、小中学校ともに、「おおむね達成」の到達基準を上回っている。特に、内容・領域「漢字の読み」においては、全学年において、「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- ・ 小中学校ともに、[4月調査]において、課題として挙げられていた内容・領域「読むこと」の「条件に合わせて自分の考えを書く」ことは、引き続き課題が見られた。
- ・ 「漢字の書き」においては、中学2年生が「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 6年間または9年間の指導事項を整理し、系統性を明らかにした上で、身に付けたい力を意識した指導の充実を図る。
- ◎ 「書くこと」と「読むこと」とを関連付けた学習指導の充実を図る。
- ◎ 漢字の意味を確認させ、文脈に即して漢字が正しく書けるような指導の充実を図る。

【社会】

《概要》

- ・ 教科正答率においては、小学校は全ての学年で「おおむね達成」の到達基準を上回っているが、中学校は、すべての学年で下回った。
- ・ 小中学校ともに、資料から必要な情報を読み取り、解答を導き出すことはおおむねできていた。しかし、複数の資料を関連付けて解答を導き出すことについては、平成25年度調査と同様に課題が見られた。
- ・ 内容・領域別に見ると、小学校においては、小学6年生の「国土の様子」（小学5年生の内容）以外は、「おおむね達成」の到達基準を上回っている。中でも、小学4年生の「地域の生産や販売」と「地域社会の歴史」においては、「十分達成」の到達基準を上回っている。中学校の地理的分野においては、中学1年生の「北アメリカ州」、中学2年生の「日本の地域構成」以外は「おおむね達成」の到達基準を上回っている。しかし、歴史的分野においては、「おおむね達成」の到達基準を下回っており、学習内容の定着に課題が見られた。特に、歴史的事象の意味について説明することや歴史的事象に関する知識の定着に小中学校ともに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 小学校においては、社会的な思考力・判断力・表現力を高めるため、中学年では社会的事象の特色や相互の関連等、さらに、高学年では社会的事象の意味について考えさせる活動の充実を図る。
- ◎ 中学校においては、特に歴史的分野の学習において、小学校での学習内容や生徒の実態を把握し、生徒の実態に合わせて歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明させたり、論述させたりする学習活動を設定する。
- ◎ 小中学校ともに、知識や概念を確実に身に付けさせるために、学習の過程において知識・技能を繰り返し活用させるなど学習活動の工夫を行う。

【算数・数学】

《概要》

- ・ 小・中学校共に四則を用いた計算や、数量や図形についての意味や性質の理解に関する項目についてはおおむね良好であった。

- ・ 小学校では、示された情報を基に既習事項を活用して問題を解決したり、解決の方法を式や言葉で説明したりすることについては、課題が見られた。
- ・ 中学校では、内容・領域「数と式」において、具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式や連立二元一次方程式をつくることや内容・領域「関数」において、表、式、グラフを関連付けて理解することについて、課題が見られた。
- ・ 中学校では、事象と式との対応を捉え、事柄が成り立つ理由を説明することや証明を見直して、改善することなどの記述式の設問は課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 示された情報を分類整理したり、必要な情報を取捨選択させたりする学習活動の充実を図る。
- ◎ 数量や図形、数量関係を考察して見出した事実、思考の過程や判断の根拠などを、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて表現させるような学習活動を積極的に取り入れる。

【理科】

《概要》

- ・ 小学校・中学校ともに、自然の事物事象に関する基礎的な知識の定着については、一部の学年に「おおむね達成」の基準を満たしていない学年があるが、おおむね良好であった。
- ・ 小学校・中学校ともに身の回りの事象を、学習した事項と関連づけて説明することに課題が見られた。
- ・ 小学校・中学校ともに観察・実験の基礎的・基本的な技能の定着については、改善の傾向にあるが、まだ課題が見られる。例えば、小学校では「方位磁針や遮光板、アルコールランプの使い方」、中学校では「メスシリンダーの使い方、化学反応式の書き方」などである。

《指導改善のポイント》

- ◎ 授業の導入を工夫し、問題意識を持たせることで、児童生徒が主体的に問題解決に取り組めるような学習指導を工夫する。
- ◎ 学習したことを基に事象の説明をしたり、学んだことと身の回りの事象を関連付けて説明したりする活動の充実を図る。

【英語】

《概要》

- ・ 中学1年生、2年生ともに、全ての評価の観点においては、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- ・ 中学1年生、2年生ともに、内容・領域「聞くこと」においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分習得されていた。
- ・ 中学1年生、2年生ともに、一般動詞を用いた「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く」ことを問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、課題が見られた。
- ・ 中学2年生の内容・領域「読むこと」において、対話文を読んで流れを理解することに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けた指導の充実を図る。
- ◎ 英語の特質を理解させるための、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導の工夫を行う。
- ◎ 読みの段階に応じた発問構成の工夫を行う。

3 地域別の正答率

○ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

(1) 国語

- 県内5地域の教科正答率は【表3】のとおりである。[4月調査]を実施していない小学4年生を除く4学年中3学年において、[4月調査]と比べて地域差が縮小した。
(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回った。【グラフ2】

【表3】 県内5地域における学年別の教科正答率

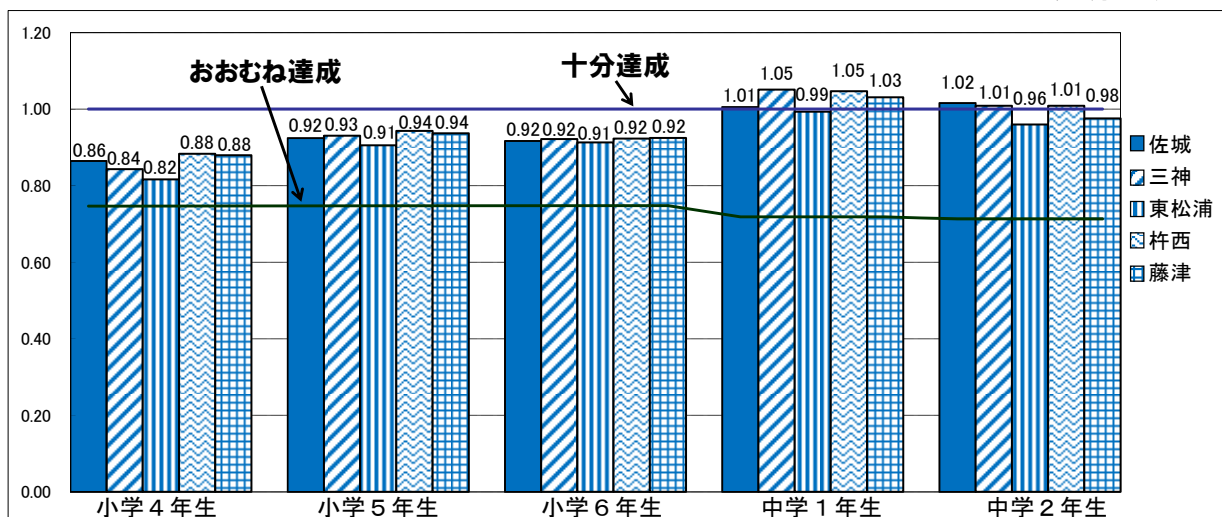
学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
小学4年生	H26[12月]	67.6	68.2	66.5	64.4	69.7	69.4	5.3
	H26[4月]	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	73.4	73.2	73.7	71.7	74.7	74.2	縮 3.0
	H26[4月]	67.6	66.7	68.5	65.7	69.6	68.3	3.9
小学6年生	H26[12月]	72.9	72.7	73.1	72.4	73.2	73.3	縮 0.9
	H26[4月]	64.5	65.8	64.8	61.6	63.3	66.2	4.6
中学1年生	H26[12月]	72.7	71.4	74.6	70.5	74.3	73.2	拡 4.1
	H26[4月]	70.1	68.9	71.7	68.4	72.0	69.5	3.6
中学2年生	H26[12月]	69.7	70.8	70.3	66.9	70.3	68.0	縮 3.9
	H26[4月]	60.4	60.4	62.3	59.0	60.7	58.3	4.0

※ 「拡」は、平成26年度[4月調査]と比べて、地域差が拡大した教科を示している。

※ 「縮」は、平成26年度[4月調査]と比べて、地域差が縮小した教科を示している。

【グラフ2】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(国語)

(十分達成=1.00)



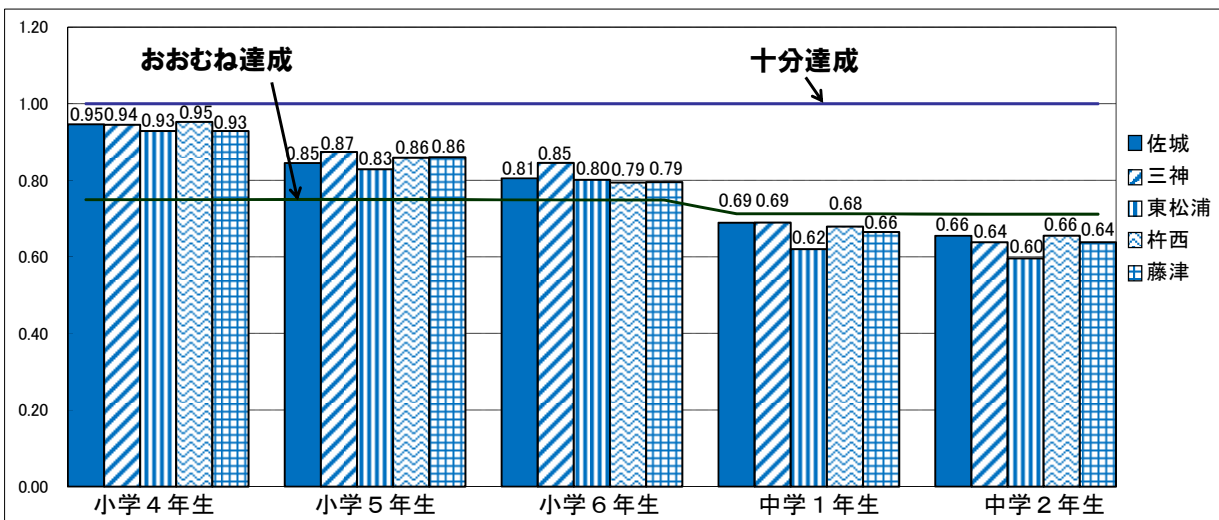
(2) 社会

- 県内5地域の教科正答率は【表4】のとおりである。平成25年度(4月実施)調査を実施していない小学4年生を除く全ての学年において、平成25年度(4月実施)と比べて地域差が縮小した。(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、小学校で「おおむね達成」の基準を上回った。中学校では、中学1年生、中学2年生ともに、5地域において「おおむね達成」の基準を下回った。【グラフ3】

【表4】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H26[12月]	75.2	75.5	75.4	74.1	76.0	74.1	1.9
	H25(4月)	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	68.2	67.6	69.9	66.3	68.7	68.8	縮 3.6
	H25(4月)	68.7	69.9	70.9	66.1	66.5	68.3	4.8
小学6年生	H26[12月]	64.4	64.0	67.2	63.7	63.1	63.2	縮 4.1
	H25(4月)	58.0	57.0	60.0	55.2	59.1	59.3	4.8
中学1年生	H26[12月]	46.9	47.9	47.9	43.1	47.2	46.2	縮 4.8
	H25(4月)	59.6	60.8	62.1	58.1	57.7	56.6	5.5
中学2年生	H26[12月]	44.3	45.4	44.2	41.3	45.4	44.2	縮 4.1
	H25(4月)	53.1	53.5	55.4	50.4	53.2	50.2	5.2

【グラフ3】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(社会)
(十分達成=1.00)



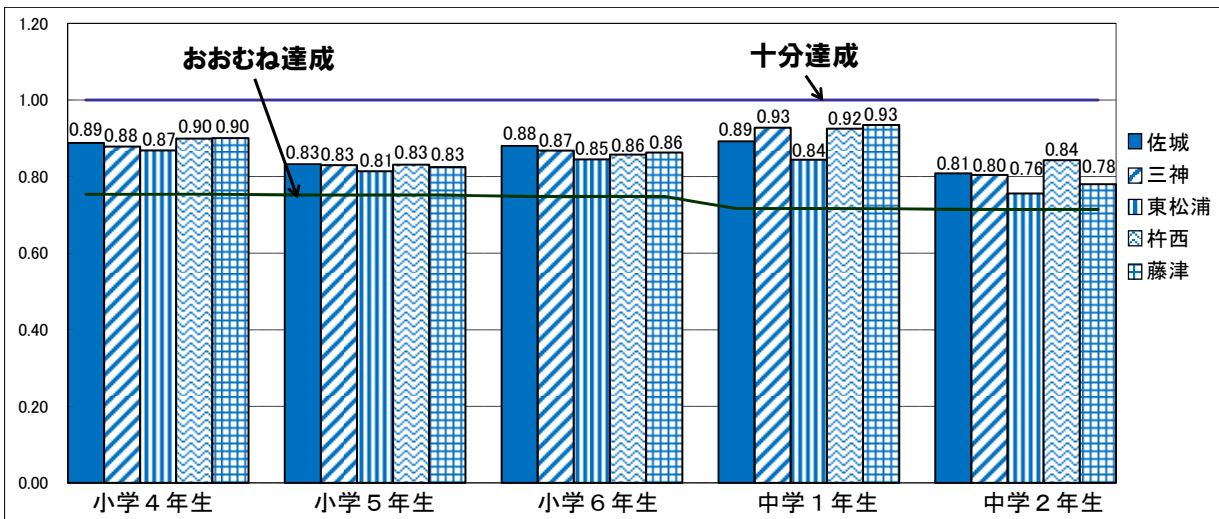
(3) 算数・数学

- 県内5地域の教科正答率は【表5】のとおりである。[4月調査]を実施していない小学4年生を除く4学年中2学年において、[4月調査]と比べて地域差が拡大した。
(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回った。【グラフ4】

【表5】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
小学4年生	H26[12月]	71.9	72.1	71.3	70.5	73.0	73.1	2.6
	H26[4月]	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	66.8	67.1	66.9	65.6	67.0	66.5	縮 1.5
	H26[4月]	59.7	59.8	60.3	57.7	60.9	58.4	3.2
小学6年生	H26[12月]	68.8	69.9	68.9	67.1	68.1	68.5	縮 2.8
	H26[4月]	69.9	70.4	71.0	68.1	68.9	70.2	2.9
中学1年生	H26[12月]	63.7	62.9	65.4	59.5	65.2	65.9	拡 6.4
	H26[4月]	70.5	70.2	72.0	68.9	70.9	70.5	3.1
中学2年生	H26[12月]	56.2	56.6	56.3	52.9	59.0	54.6	拡 6.1
	H26[4月]	47.3	48.3	47.6	44.3	49.3	44.4	5.0

【グラフ4】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(算数・数学)
(十分達成=1.00)



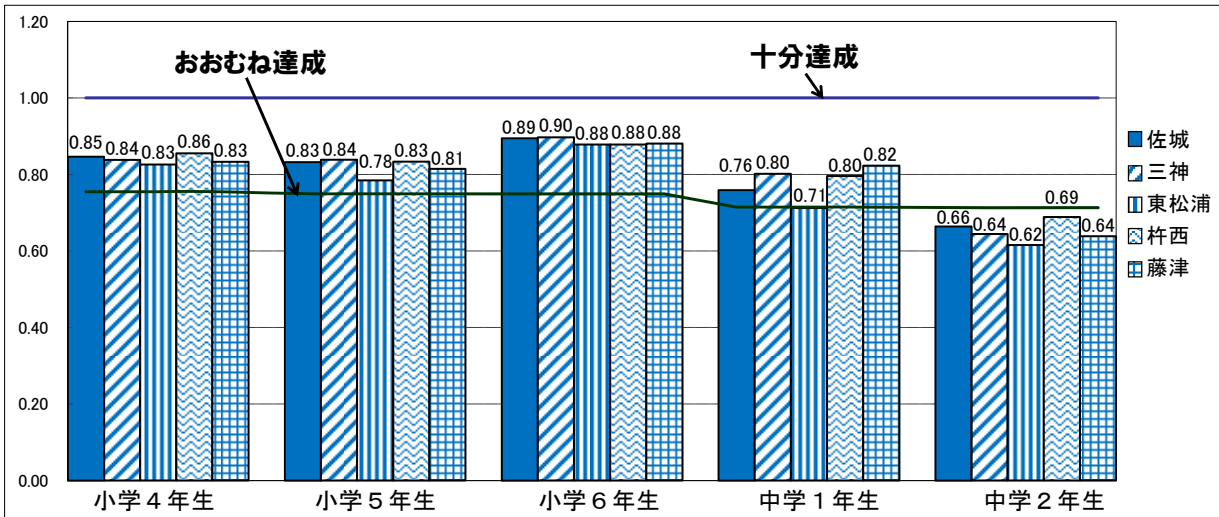
(4) 理科

- 県内5地域の教科正答率は【表6】のとおりである。平成25年度(4月実施)調査を実施していない小学4年生を除く4学年中3学年において、平成25年度(4月実施)調査と比べて地域差が拡大した。(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、小学校で「おおむね達成」の基準を上回った。中学校では、中学2年生において、5地域とも「おおむね達成」の基準を下回った。【グラフ5】

【表6】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H26[12月]	68.6	69.0	68.3	67.3	69.7	67.9	2.4
	H25(4月)	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	65.8	66.4	66.9	62.6	66.5	65.0	拡 4.3
	H25(4月)	63.4	64.5	64.5	61.0	62.0	63.9	3.5
小学6年生	H26[12月]	70.8	71.3	71.5	70.0	70.0	70.2	縮 1.5
	H25(4月)	58.0	58.1	60.4	54.6	58.4	57.1	5.8
中学1年生	H26[12月]	54.2	53.2	56.2	49.9	55.8	57.7	拡 7.8
	H25(4月)	61.3	62.2	62.9	58.1	62.2	58.6	4.8
中学2年生	H26[12月]	45.6	46.3	44.9	42.9	48.0	44.5	拡 5.1
	H25(4月)	47.5	49.7	48.9	45.1	45.2	45.0	4.7

【グラフ5】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(理科)
(十分達成=1.00)



(5) 英語

- 県内5地域の教科正答率は【表7】のとおりである。平成25年度(4月実施)調査において対象教科となっていない中学1年生を除くと、中学2年生において、平成25年度(4月実施)調査と比べて地域差が拡大した。
(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、どちらの学年も「おおむね達成」の基準を上回り、中学1年生では、「十分達成」の基準を上回った。【グラフ6】

【表7】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
中学1年生	H26[12月]	74.3	74.6	76.0	67.4	77.4	74.4	10.0
	H25(4月)	-	-	-	-	-	-	-
中学2年生	H26[12月]	59.3	60.9	60.0	53.6	61.1	59.1	拡 7.5
	H25(4月)	60.2	61.7	61.6	58.1	59.4	55.8	5.9

【グラフ6】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(英語)
(十分達成=1.00)

